

令和元年度司文庫基金運営委員会 会議要録

■開催日時 令和元年 10 月 31 日（木） 午前 10 時 00 分～11 時 30 分

■開催場所 中央図書館 3 階 第 2 会議室

■出席委員（5 名）

神野志保子委員、井上公余委員、金田文子委員、金子雪江委員、中島一吉委員

■事務局（6 名）

（美術博物館）野澤事務長補佐

（図書館）田中館長、岡田主幹、中村補佐、岩瀬専門員、木佐貫専門員

権田主査、田中主査

■議事概要

1. 開会

2. 館長あいさつ

3. 議題

（1） 委員長、副委員長の選出について

（2） 平成 30 年度事業報告について

（3） 令和元年度事業について

（4） 令和 2 年度事業計画について

（5） その他

■発言要旨

（事務局）

正副委員長が決まるまで、事務局が議事を進めます。会議は公開し、会議録作成のため、録音もします。

<図書館長あいさつ>

<委員及び職員各自自己紹介>

（事務局）

豊橋市司文庫基金運営委員会要綱第 5 条第 1 項（委員の互選による委員長及び副委員長を置く）に基づき、正副委員長の選出をお願いしたい。

（委員）

委員長に神野委員を、副委員長に井上委員を推薦する。

<全員異議なし>

(事務局)

令和元年度豊橋市司文庫基金運営委員会の委員長を神野志保子委員に、副委員長を井上公余委員に決定した。議題(2)以降の進行は、委員長にお願いする。

(委員長)

議題(2)の「平成30年度事業報告」と司文庫の経緯について、事務局に説明をお願いする。

<事務局が、資料に沿って説明>

(委員)

基金の利子も年々減る中で、有効な活用が求められるが、購入した本の情報を日本人だけでなく、外国人の方にはどのように届けているのか？

(事務局)

ポルトガル語やタガログ語については、ブックリストを作成した。また、外国籍の方が多く住む公営住宅に司文庫の絵本を持参して、読み聞かせをしたり手に取って読んでもらったりした。

(委員)

小学校の授業で英語も取り込まれている。英語絵本の読み聞かせも『はらぺこあおむし』など皆が知っているものだと子どもでもとっつきやすい。司文庫を有効に使えると思われる。

(委員)

絵本は絵から見ることができ分かりやすい。また、この言語もあるよ、この言語もあるよ、となれば、外国から来た方も使いやすい。公営住宅に行くのは定期的なのか？

(事務局)

概ね1か月に1回くらい。岩田住宅と西部住宅に行っており、特に岩田は参加者が増えてきた。

(委員)

司文庫の教科書コレクションも、見ると日本と教え方が違うことが分かり面白い。こういうことも、来館してもらわないと分かってもらえない。先ほど話にでた英語教育での読み聞かせも、紙芝居のようにすると子供は理解しやすく、広がっていくのではと思う。

(委員)

外国籍の子供たちに対し、どんな本が読みたいか、というニーズのヒアリングは行っ

ているのか？

(事務局)

読み聞かせの時に少し会話をして、「この言語の本がいい」とか「このシリーズは人気」などと、教えてもらっている。

(委員)

外国語絵本の読み聞かせは、図書館の職員が行っているのか？

(事務局)

参加した保護者にお願ひし、読んでもらっている。ただ、大人の参加者がいない場合もあり、そうした場合、子供にお願ひしてもよいだろうか、と検討中である。

(委員)

子供が子供に読むのも良いだろう。そういう機会に、日本人の子も外国語の音に触れるとよいのではないか。読み聞かせも、「今日のはらぺこあおむしの日」と決めて、いろいろな言語のはらぺこあおむしに触れると、多くの子が参加しやすい。

(事務局)

試行錯誤していろいろとやっているところが、少しずつ広がっているので、今言われたようなことも進めていきたい。

(委員)

学校の教室には大型テレビが設置されており、絵本を映し出すこともできる。そうしたものも活用すれば、色々と可能性が広がる。そういうことができるのだということを、教員に知らせることも大事なことである。

(委員)

日本に長く住んでいる外国人の方からの、図書館利用に関する情報発信も有効である。

(事務局)

国際交流協会や教員の方への働きかけを積極的にやっていきたいと思う。

(委員長)

では、次に議題（3）の令和元年度事業について説明をお願いする。

<事務局が、資料に沿って説明>

(委員)

美術書も良い本がたくさんあるが、それを知らないという方も多くいる。やはり、ど

う情報発信していくか、ということだが、たとえば学校で図書館に来たりするということはあるのか？

(委員)

距離的に近い学校は可能であるし、実際行っているところもある。

(委員)

美術博物館の展示とのコラボだが、お互いのパンフレットをおいて、有効にPRしあえるともっと来館者が増えるのでは。司文庫には個人では購入できない美術書がたくさんあるので、そのあたりを自分でもPRしようと思う。司文庫といえば洋書と思われるがちだが、美術書は絵で楽しめるから、ぜひ多くの方に見てもらいたいと思っている。

(委員)

PRの話だが、広報とよはしには、図書館の枠がある。その中に2か月に1回でも、司文庫の枠をもらうことは難しいか？英語絵本の紹介ができれば、書店ではなかなか手に入らない絵本なので、子育て中で英語に興味のある保護者の方に図書館を利用してもらおうきっかけになる。

(委員)

岩田など外国籍の子の多い学校2～3校に頼んで、司文庫のことを知っていますか、と外国籍の子にアンケートをとってみるのもどうか。その回答によって、PRのやり方も少し変わってくるのではないだろうか。

(委員)

広報とよはしに載せている「おすすめの本」に司文庫の英語絵本を載せると、表紙の絵がカラーで載るので、インパクトがある。

(事務局)

広報の記事は図書館の中でも取り合いになりますが、いかに有効に使うかが大切なので、SNSなども含め、発信力について強化を図りたい。

(委員)

広報にはよく、ネットで調べてください、と書いてある。若い方はHPを調べるかもしれないが、やはり多くの方が最初に見る情報源は広報である。

(委員)

発信の方法も多様化されているので、色々な方法を選んで届けられると良い。

(事務局)

SNSでは特に、イベント情報や開館情報などタイムリーなものを発信するようにしている。

(委員長)

では次に、議題(4)の令和2年度事業計画について説明をお願いします。

<事務局が、資料に沿って説明>

(委員)

金利も低くなっており、資料収集も厳選してもらっている。その厳選した資料をしつかりPRしたいところだが、来年度の司文庫展は世界遺産の建築か？

(委員)

はい。写真や絵が多く含まれる図鑑や実用書を生かして、展示を行う予定である。

(委員)

本棚の中にしまわれると、なかなか目的が無いと見ることがないが、表紙が見えるように立てかけてあると、目につきやすく、みなさんにも、もっと使われると思う。

(委員)

2Fの入り口に司文庫の本が、表紙が見えるように立てかけてあるが、そこにおススメの本やポップを付けたり、通路となるような場所ではなく、棚のほうにも配置できると、もっと見てもらえると思う。

(委員)

最後に、まとめのような形で、意見をお願いしたい。

(委員)

情報発信だが、全部の媒体に全部の情報を載せるのではなく、内容によってターゲットを絞り、それぞれツイッターやLINEなどに載せるとより有効に発信できると思う。

(委員)

外国籍の方たちが集まる場所にチラシを配置することで、手にとってもらいやすくなる気がする。図書館の中でも、新聞に載っていた展示会の情報をちょっとポップで示して美術書を案内すると、司文庫の宣伝ができる。

(委員)

教員でも、図書館に来て、見て、知ること、それぞれこういう使い方ができるな、と教育活動の可能性を考えることができる。図書館研究部の後などに、司文庫コーナ

一にも寄ってもらえば、司書教諭や図書館主任が核となり、活用法を示していけるだろう。

(委員)

2階の司文庫コーナーまで誘導する手立てを考える必要がある。1回見てもらえれば、凄いな、ということが分かってもらえる。

(委員)

司さんがせっかく残してくれたこの宝を活用できるよう、委員も図書館も上手にPRしていきたい。

(事務局)

図書館は本来ワクワクする場所。本を置く、貸すだけでなく、気軽に寄って新しい情報を得られる場にしたいと考えている。

(委員)

まちなか図書館にも司文庫のコーナーができるのか？

(事務局)

常設かどうかや規模などは、まだこれからだが、同じフロアには国際交流協会が入るので、色々連携して事業を行う計画である。その中で司文庫の活用もされていくかと思う。頑張っていくので、検討し変わっていく部分なども見ていただければなど、図書館が市民の皆様の近くに行けたらな、と思う。

(委員)

まちなか図書館がどうなるかも楽しみです、私たちも情報の発信など力になりたいと思う。

(事務局)

以上で、司文庫基金運営委員会を終わります。ありがとうございました。